

2023年9月版

TASCAM[®]

デジタルミキサー

Sonicview 24

Sonicview 16



TASCAM Sonicview 16/24 の概要

ティアック株式会社

TASCAM Sonicview 16/24 の概要



TASCAM Sonicview 16



TASCAM Sonicview 24

■ 16 or 24 フェーダーの一体型音声卓

ティアックは2022年3月から Sonicview 16/24 (ソニックビュー) というデジタル音声卓を発売した。他にラック類を必要としない一体型の音声卓であり、EIA ラックマウントサイズの16フェーダー仕様とやや大きい24フェーダー仕様の2モデルを用意。Sonicview 16が定価75万円(税抜)、Sonicview 24が定価85万円(税抜)である。リーズナブルな価格設定ながら、放送業務はもちろん、PA/SR用途、設備用途等にも幅広くお使いいただける卓を目指した。発売から1年半が経過し、受注・出荷台数は国内のみで既に200台を超えるヒット作となった。

■ 主な仕様

Sonicview 16/24の主な仕様は以下の通り。

音声入出力

- 16 or 24ch マイク / ライン入力 (XLR)
- 16ch アナログライン出力 (XLR)
- 64ch Dante 入出力 (Primary/Secondary)
- 32ch USB 入出力 (Type-B、Audio IF として動作)
- 2 追加スロット
スロットに装填できるカード(別売オプション)は以下の通り。
 - IF-AE16 8 AES/EBU 入出力
 - IF-MA64EX/BN 64ch MADI 入出力 マルチモード光 SC、BNC
 - IF-DA64 64ch Dante 入出力
 - IF-AN16/OUT 16ch アナログライン出力
 - IF-MTR32 32ch マルチトラックレコーダー

- 1 トークバックマイク入力 (XLR)
- 1 SD カードスロット 2ch 録音再生
- 1 USB Type-C ポート 2ch 再生
- 2ch モニター専用ライン出力 (XLR)
- 2 ヘッドフォン出力 (6.3Φ、3.5Φ各1)

制御入出力

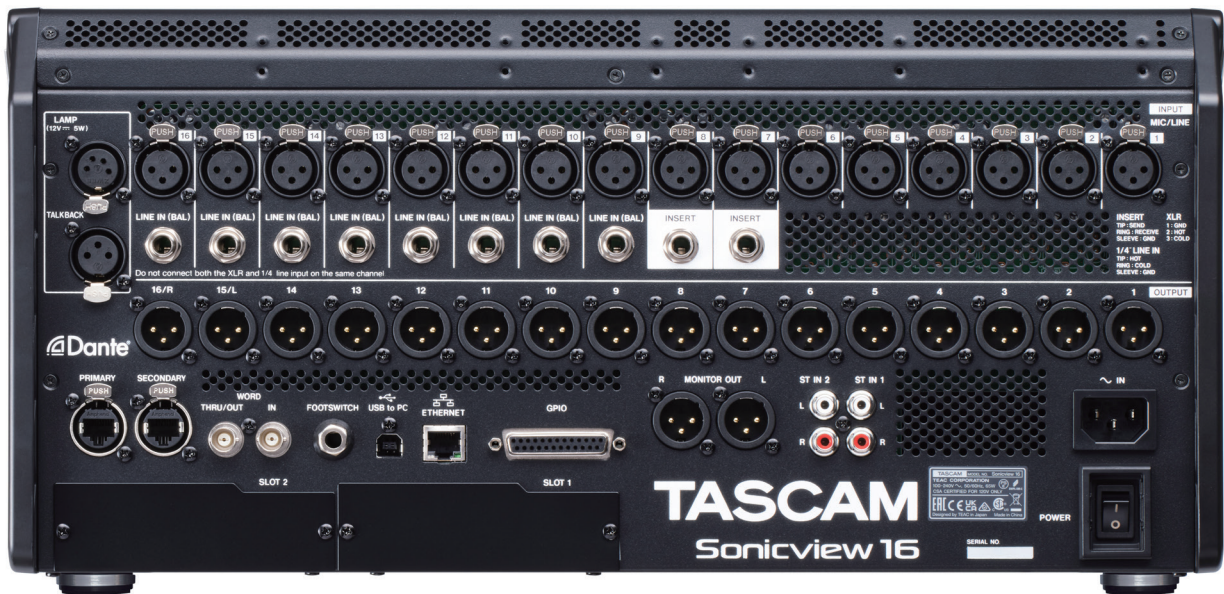
- GPIO 8 IN / 8 OUT (D-sub25)
- 1 Foot Switch IN (6.3Φ フォン)
- 制御用 LAN ポート (RJ-45)

同時処理能力

- 40 モノインプット + 2 ステレオインプット
(モノインプットはステレオインプット設定可能)
- 24 ミックスバスアウトプット
(22 MIXバス + 1 MAIN LR、22 MIXバスは、AUX or GROUP、モノ or ステレオを設定可能)
- 4 ステレオマルチエフェクター (空間系、ピッチシフター)
- 4 専用センドバス、4 専用リターンフェーダー装備
- 内部処理 96kHz 54bit 浮動小数点演算
- AD コンバータ 96kHz 32bit
- DA コンバータ 96kHz 24bit

寸法・重量

Sonicview 16 : W472 × D554.4 × H228.1 mm、13kg
Sonicview 24 : W690.8 × D554.4 × H228.1 mm、18kg
(H : ゴム足含む。実質 5U)



TASCAM Sonicview 16 背面

■ マイク HA、アナログ出力、ヘッドフォン出力

マイクプリアンプ及びアナログ出力の音質については、限られたコスト制約の中で、精一杯こだわった。開発段階で試作品を在京各局に持ち込み、実際にマイクや音源を接続し、スピーカーから音を出してもらい、ご意見をいただきながら仕様を決めていった。特にマイクプリアンプに関しては、過大入力時の歪み方を工夫し、万が一の場合も「放送に乗せられる歪み」とすることができたと思う。既に各局の中継現場にて大変ご好評をいただいている。ヘッドフォン出力については「とにかく聞こえる音量」を意識した仕様とした。3.5φと6.3φを用意し、平行しながら2本挿せるようにしてある。

■ 96kHz, 54bit 浮動小数点演算

内部処理を96kHz/54bit浮動小数点演算とすることで、デジタル卓にありがちな飽和感が極めて少ない優れた音質による明瞭なミキシングと、低レイテンシー（アナログ入力ポート→AD→Inputモジュール→ミックスバス→Outputモジュール→DA→アナログ出力ポート、というアナログ to アナログで0.51ms）を実現した。モニター返し用途等で顕著にその優位性を体感できるはずである。

■ 全体の設定が俯瞰できるマルチタッチスクリーン

Sonicview 16で2枚、Sonicview 24で3枚のタッチスクリーンを装備、LEDメーター下にあるHOMEボタンを押せば、アナログ卓のように各モジュールの状態を俯瞰できるHOME画面が表示される。この画面はSonicviewの重要な特徴である。いちいちSELボタンを押したりせずに、各モジュールのセッティングを確認できる安心感は絶大である。また、色や明度で状態を表示するようになっており、例えば、インプットモジュールに、アナログ入力のアサインがあればゲインノブは赤く表示され、デジタル入力のアサイン

されている際はグレーで表示される。またEQ、COMP等はON時、明るく表示される。文字を読まずとも一瞥で状態を理解できるデザインとなっている。

■ 簡単な操作性

「デジタル卓はどれも苦手」という方々にも気に入っていただけるように、とにかく手数が少なく操作したい機能画面にたどりつけることを意識してGUIをデザインした。言い古された表現だが「直観的に操作できる」ことに本気で取り組んだ。「触りたい部分に触る」だけで、ほとんどの機能画面に2手以下でたどりつくことができる。例えば、上述のHOMEボタンでHAを操作したければ、一番上のINPUT表示付近を1度触るだけで、画面下のロータリーエンコーダにマイクHAのゲイン（デジタル入力がアサインされている際はデジタルゲイン）が表示される。AUXセンドも同様である。EQ、COMP等は触りたいチャンネルの表示部を触ると、そのEQ画面が即座に表示される。簡単でスピーディーな操作性は、放送用卓として一番大切な部分であろう。



タッチスクリーン



TASCAM Sonicview 16 正面

■ 各モジュールの機能

各モジュールには以下の機能を実装している。

- 40 モノインプットモジュール（ステレオ設定可能）
Gate(Expander, De-Esser)/4 band P.EQ/
Comp(Ducker)/Delay(340ms)/Insert/Direct Out
- 2 ステレオインプットモジュール 4 band P.EQ
- 24 アウトプットモジュール（AUX/GROUP/MAIN）
- 4 band P.EQ/31p G.EQ/Comp/Delay(340ms)/Insert

各モジュールの COMP は 6 つの KNEE の切り替えと共に動作アルゴリズムを変えることで、6 通りのかかり方としてあり大変好評である。また、アウトプットモジュールは、他のバスにもアサインすることができ、様々な運用に対応できる。さらに、8 つの DCA グループと Mute グループを装備している。

内蔵エフェクトは 4 式、上記 24 バスとは別に専用のセンドバスと専用のリターンフェーダーを用意。

エフェクトは、リバーブ、ディレイ等の空間系エフェクト、ピッチシフターを実装した。

■ 充実の実用機能

7 レイヤー

フェーダー面は 7 つのレイヤーを持ち、どのレイヤーに何を表示させるか、右端の MASTER フェーダーも含め、どのフェーダーに何を割り付けるか柔軟に設定可能。

128 スナップショット

スナップショットは 128 個まで保存可能。入出力のポートアサイン、全てのパラメータ、レイヤー / フェーダーの並び、MIX バスの設定までを記憶する。USB/SD カードで設定データを送受し、後述のリモートアプリで PC に展開する、PC でスナップショット設定を作りそれをロードする等、デジタルならではの利便性を具現化している。

2 モニターバス

F/W Ver.1.5 からモニターバスが 2 系統になり、より放送業務に使いやすいモニターシステムとなった。各モニターでそれぞれ 6 つのモニターソースをプリセットし、ボタンで切り替え可能。MUTE/DIM 等の必須機能を備え放送システムの様々な使用方法に対応する。さらにマイクロケーション（カフ ON 時にスピーカークット）機能も標準装備し、通常のラジオスタジオであれば、標準搭載する機能だけで十分にシステム構築が可能となる。

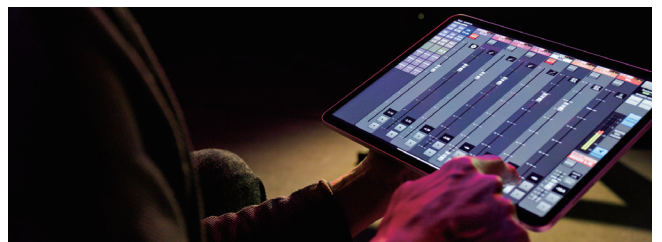
OSC/TB 機能

回線チェック等で必ず使う OSC は、専用画面を用意し簡単に基準が出せるようにした。各インプットモジュールにも OSC をアサインできる。

トークバックについては、各バスやモニターに対し直接割り込むことができ、それらをユーザーキーで操作できるようにしてある。

リモートアプリ

弊社 web サイトから無償でダウンロードできる TASCAM Sonicview Control アプリを用意。皆様の PC で Sonicview のセッティングを行い、スナップショットを保存し、そのデータを USB/SD カード等で卓本体にインポートし再現する、といったことが簡単に行える。また本アプリをインストールした PC を背面 LAN ポートに接続し通信させれば、アプリ画面にてリアルタイムに本体を操作できる。第 3 もしくは第 4 の操作パネルとして PC を使えるメリットは大きい。背面 LAN ポートにルーターを接続すれば iPad も使用可能である。



TASCAM Sonicview control アプリ

GPIO 標準装備

8 IN / 8 OUT の GPIO ポートを標準装備。カフ制御（カフ OFF → MUTE）やフェーダースタート / ストップ等、基本的な機能は標準実装しており、上述のモニターシステムと合わせて、通常のラジオスタジオであれば十分にシステム構築が可能である。16ch ステージボックス SB-16D（別売オプション）にも同じ GPIO ポートを装備したので、8 IN / 8 OUT で足りない場合、SB-16D を増設すると GPIO ポートを増やせる。また、次のバージョンアップで、Audio Follow Video（いわゆるタリー連動）機能も追加予定である。

■ 録音再生機能

2ch の録音・再生機能を標準装備している。メディアは SD カード（録音・再生）と USB（再生のみ）、卓面上に SD カードスロットと USB Type-C ポートを装備した。録音は WAV（サンプリングレートは卓の設定に連動）、再生可能フォーマットは WAV, MP3, AAC。録音ソースは 24 バスの中から選択可能、同録や、マイク素材のみグループでまとめるの抜き録り等にも大変便利である。卓の右側に並ぶ 18 個のユーザーキーにて、REC, PLAY, STOP 等のトランスポート系をアサインすればボタンでの操作もできる。また、特定のトラックを再生するダイレクトプレイ機能をアサインすれば、簡易ポン出しも可能である。中継卓として運用されている各局において、持参する中継機材を減らすことができる本機能は大変好評である。さらに、背面スロットに IF-MTR32 カード（税抜定価 12 万円、別売オプション）を装填すれば、32ch のマルチトラックレコーディングが可能となる。インプットモジュール 1-32 のダイレクトアウトを自動でルーティングする LIVE REC モードの他、録音ソースを任意に指定することも可能。長年、録音再生機を製造してきたティアックならではの機能と言える。

■ 軽量で優れた可搬性

Sonicview 16 で 13kg、Sonicview 24 でも 18kg と軽量である。中継用としては重要な長所である。筐体の左右側面に手が入るデザインのため持ち運びしやすく、大人一人で普通に持てる。



手が入る側面デザイン

■ 付属品

国内向けについては、以下を標準付属品とした。

- 抜け止め電源ケーブル AC-1800L
- ダストカバー AK-DCSV16/24,
- タブレットシェルフ AK-TB15（16:2 枚, 24:3 枚）
- タッチペン

タブレットシェルフは、iPad 等を斜めに置いておける小さな譜面台のような棚板だが、裏表を逆にすると平らになり、VU メーター等が置けるデザインとした。

■ オプション品



SB-16D ステージボックス

SB-16D ステージボックス

16ch アナログ入出力（XLR）を装備した Dante 接続のステージボックス（税抜定価 38 万円）を用意した。最大 4 台（16ch x 4 = 64ch）まで Dante ポートに接続でき入出力を拡張できる。本体と同じマイク HA 基板を実装し、Sonicview と接続すれば全てのコントロールを卓から行える。8 IN / 8 OUT の GPIO ポートも装備し、制御ポートの拡張も可能である。DC 入力も装備。従来のアナログ XLR コネクタボックスのような床置きでの使用、付属のラックマウント金具によるラックマウント設置（3U）も可能。また、SB-16D はアナログ-Dante コンバータとしてスタンドアロンでの運用も可能。専用のリモートアプリ TASCAM IO Control を用意し、マイク HA 制御を PC から行える。



タブレットシェルフ AK-TB15（標準付属品）

スライドレール取付キット

Sonicview 16 は EIA ラックマウントサイズ（本体 5U）であり、1U スライドレール台をオプションとして用意した。



ラックマウントキット

本体を EIA ラックマウントする金具オプション。本体の側板を外し取り付ける。約 13U、3 通りの角度を設定可能。

ハードケース

3U 程度の大型収納スペースを持つ堅牢なハードケースを用意。



ハードケース CS-SONICVIEW16

■ メンテナンス・保守

容易な設定復元対応

卓全ての設定を保存する All System Data を USB メモリー /SD カードにバックアップしておくことで、代替機等に入れ替えた際に、同データをリストアすればスナップショットやユーザーキーアサインを含む全ての設定状態を、ほんの数分で容易に復元できる。

フェーダー交換可能

フェーダー実装部分が別パネルとなっており、モータライズドフェーダーを 1 本ずつ、自ら交換可能とした。

5 年毎のメンテナンスプランを用意

使用から 5 年程経過した時点で、電源、フェーダー、ファン等の消耗部品を交換する、保守メンテナンスプランをご提案する予定である。

■ 今後の予定

現時点で下記の機能追加他を予定している。

AFV(タリー連動) 機能追加

次期バージョンアップにて、Audio Follow Video、いわゆるタリー連動機能を実装予定。

Auto Mixer 機能追加

次期バージョンアップにて、最大 16ch、4 グループ設定可能な Auto Mixer 機能を実装予定。

ST2110 I/O カード

2024 年春頃を目途に、ST2110 I/O カードを発売予定。

Ember+ 対応

ST2110 I/O カード発売と同タイミングで、Ember+ プロトコルによる外部制御に対応予定。

■ 終わりに

以上が Sonicview 16/24 の概要である。発売から 1 年半が経過し、既に日本全国各地の放送局にて運用され実績を重ねている。次期音声卓候補として、是非ご検討いただければ幸いである。